



HOPS

HALCC

津別高校

存続のために

HALCC 教育班



取り組んだ課題

課題：津別高校存続

- 1) 2年間連続で20人の入学数を下回ると存続不可の可能性
- 2) 過疎化も伴い、実際に上記が現実味を帯びてきた。

存続させる理由

- ・津別高校が無くなると困る人がいる

生徒：経済的・時間的な理由でここしか通えない。地元の高校に行きたい

町：教育インフラ欠如による移住減・現居住者引っ越し

- ・教育委員会のアツい思い

ヒアリング・参考資料

教育委員会・津別高振興会・津別高教頭・さんさん館利用者・図書室司書

教育委員会実施コンサルティング会社アンケート資料

現状（良いところ）

- ・ 個別指導（進路決定率100%,国公立大毎年輩出,各種講座）

- ・ 非常に魅力的な制度の数々

ex) 海外研修・教科書,制服,入学時補助金・給食制度

勉強マラソン・ALT・バス代金

- ・ 教員の方のワンツーマン指導が可能

- ・ 国公立大への進学実績も毎年有り

現状（問題点）

- ・ 過去の”悪い”イメージがそのまま定着している
- ・ PRをしているが期待した反響が得られない

→高校の優れた制度の魅力が、あまり知られていない

→コンサルの資料でも、アンケートを通じて地元の人が50%以上の人が知らなかった
と回答（ましてや町外の人...？）

課題

1.魅力的な制度のPR強化

2.過去の”悪い”イメージの払拭

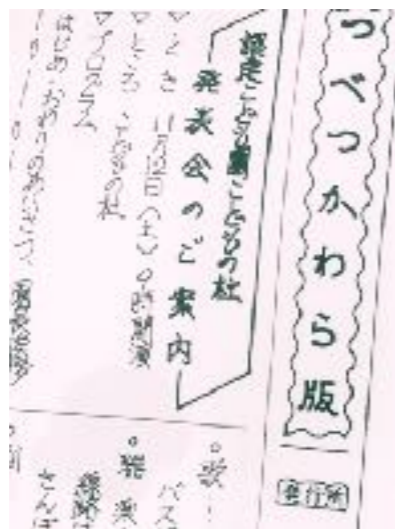
解決策-1

役場発行「広報つべつ」、つべつかわら版、経済の伝書鳩、みんなの利用

→津別町民及びオホーツク管内へのPR。津高魂でのイベントお知らせのみならず
制度に関連する記事をプレスリリース；文章で制度をさりげなく紹介

ポスターの置き場所に苦戦:中高生が集まる場所へ

→例えば図書室などにパンフ配布、ポスター掲載（図書室には了承済）



津別町の手書きの新聞・住民の方の目に触れる

解決策-2

生徒と地域の方々との交流の機会を増やす

→ 実際の実直な津高生と関わるとイメージ変化

→ 様々な世代と関わることで社会人基礎力向上

とっかかりとして...

津別高校のボランティア局・ボランティアサークルひまわり

機会としては、さんさん館(利用者満足度調査参照)等



その他の希望アイディア達

立川彰さん、大西重成さん（津別高OB）とのコラボ講義

→立川さん：高校生と動画作りたい。外部講師として動画作成講義

→このPR講義を通して学生プロデュースの津別高PRビデオ作成等

→高校生もスキルつく、立川さんのニーズも満たす。実現可能性高

- SNS発信（非公式・公式）
- 専門課程の公式設置：商業科・特進科など



津別高校を次世代へ
ご静聴ありがとうございました

